令和７年度　普及指導センターの主な活動を紹介します

巻農業普及指導センターでは、当地域の農業が将来に希望の持てる魅力ある産業へと発展し、担い手を中心とした持続的な農業構造が実現するために、以下に示す２項目を重点課題に設定して取り組みます。

重点課題１
担い手を中心とした持続可能な農業・農村の仕組みづくり

地域農業の基盤である稲作においては、米価低迷や高齢化によって急激な耕作者の減少が進んでいます。地域農業の維持・継続には、担い手の育成と既存担い手の受け皿拡大が必要となります。

今年度はモデル地区として、西川西部地域の担い手経営体を対象に、耕作地の集約化に向けた農地利用調整機能の自立化支援を行います。更に、同地域内の川崎地区を対象に、地域農業の継続・発展に向けた営農プランの作成を支援します。

重点課題２
魅力ある農業経営体の育成

地域の中心的な担い手である水稲＋園芸（えだまめ他）の複合経営を展開する農業法人をモデルに選定し、今後の大幅な規模拡大に対応できるよう、主要部門の水稲やえだまめの生産技術改善や作業効率の向上を進めるとともに、経営管理の効率化、従業員確保、人材育成の仕組みの構築を支援します。

担い手・経営支援グループ

近藤（野菜）　遠田（畜産）　小潟（花き）
川又（野菜）　石田（普及課長）　遠山（所長）　奥山（企画専門員）

地域農業推進グループ

澤田（作物）　淺見（作物）　佐藤職員
中村（野菜）　萩野（作物）　窪田（野菜）　吉川（果樹）

～お世話になりました～

井浦　　悟	農業大学校へ	田崎　義孝	退職	長谷川昌伸	村上農林部へ
土田　信弘	新発田農業部へ	五十嵐　衛	長岡農林部へ	木下　佳子	農業総務課へ
加納　義高	長岡農林部へ	竹内　一成	新潟農林部へ		

一般活動の紹介

作　物　「県産穀物の安定生産・供給」

近年は異常気象の影響で、基幹作物である水稲及び大豆の収量・品質が不安定な状況にあります。異常気象に対応した管理が実践できるよう、タイムリーな情報提供で生産及び経営の安定化を支援します。また、担い手経営体への農地集積が進行しているため、稲作の規模拡大に対応した乾田直播栽培の導入を推進し、経営の安定化と生産力の向上を支援します。

園　芸　「持続的に発展する園芸産地の育成」

新潟県園芸振興基本戦略の下、「大玉すいか・抑制メロン」「小玉すいか」「かんしょ」「えだまめ」「たまねぎ」「いちじく」の６つの園芸産地の発展ビジョンを策定し、関係機関・団体と連携しながら、生産団地化や先進技術の導入、生産効率を上げる環境整備等、産地の構造改革を進め、産地を牽引する核となる経営体の育成や新たな担い手の確保を支援します。

畜　産　「畜産物を安定生産する持続可能な経営体の育成」

飼料等の高止まりが酪農経営を圧迫し深刻な状況が続いています。安定的な生乳生産に向けた自給飼料の安定確保のために、飼料コントラクターの作業改善を支援します。

担い手　「就農・定着まで一貫した支援による担い手の確保・育成」

就農啓発・相談活動及び研修受入・就農支援体制について、関係機関・団体と連携しながら充実させていきます。また、新規就農・就業者、若手農業者に対する技術・経営指導、４Ｈクラブ等活動を支援します。